

海外進学への支援

カレッジカウンセラー 横山 瑛樹 / 北 翔一

1. はじめに

令和4年度は、IB コースの2期生が3年次となり出願指導をはじめとした本格的な進路指導も2年目となった。今年度は、ガイダンスグループのなかにカレッジカウンセラーを配置することで、海外進学について国際科とIBコースを一元的に指導することを図った。これにより、海外進学向けの google クラスルームの設置や海外進学ワークショップの開催など、国際科とIBコースで分け隔てなく情報提供を効率的に行うことができた。これに加えて、BridgeU や UCAS などを活用した IB コース特有の出願指導のノウハウの蓄積を図った。

2. 海外進学についての情報提供

今年度から、カレッジカウンセラーをガイダンスグループの中に設置し、IB コースだけでなく国際科の海外進学を希望する生徒への支援もより進めていくことになった。カレッジカウンセラーの主要業務として海外進学についての情報提供を位置づけ、生徒が主体的に留学についての情報収集ができるようにすることを目標として、google クラスルームの設置や海外進学ワークショップの開催をすすめた。

2.1 海外進学希望者向け google クラスルームの設置

4月より google クラスルームを設置して海外進学希望者への情報提供を行っている。情報提供の方針として、留学あっせん業者（いわゆる、留学エージェント）のような私企業のものではなく、なるべく大使館などの公的な機関が行っている留学イベント等を紹介するようにしている。

情報源としては、日本学生支援機構が運営する「海外留学支援サイト (<https://ryugaku.jasso.go.jp/>) を活用した。このサイトは、各国の学校の制度や留学制度がまとめられているだけでなく、より詳細な説明を載せたリンク先も紹介している。また、公的機関が行う留学イベントも案内しているため、この情報を転載する形で google クラスルームを通して情報提供している。

1～3年次の興味がある生徒が自由に参加する形であり、11月上旬の段階で113名の生徒が登録している。

2.2 [7月実施] 3年次対象 総合型ワークショップ＜海外進学コース＞

海外進学では高校3年間の成績だけでなく、自己アピールのためにエッセイを求められることが多い。そのため、3年次を対象に、夏休みの進学準備を支援することを目的としたワークショップを7月15日(金)に実施した。講演者として、ベネッセのグローバル教育推進部に依頼した。

国際科とIBコースの2、3年次生約15名が参加し、今後の進学準備のスケジュールや自己PRの書き方を学んだ。特に、イギリスはアカデミックな視点で、アメリカは総合的な人間力を

アピールする視点で執筆をすすめた方が良いというアドバイスであった。

2.3 [11月実施] 1, 2年次対象 海外進学ワークショップ

海外進学に興味がある生徒の裾野を広げるとともに、具体的な情報提供を目的として11月に2回に分けて海外進学ワークショップを行った。

第1回として11月18日(金)にベネッセのグローバル教育推進部の方をお招きしてワークショップを行った。今回は、1年次向けと2年次向けで2部制とした。1年次向けの第1部では、各国の大学制度の紹介や具体的な留学生生活など基本的な紹介を行い、2年次向けの第2部では、海外進学した場合の就職活動や奨学金など少し高度な情報を提供した。また、それぞれで冬以降の進学スケジュールを紹介し、生徒が主体的に進路実現に向けた活動ができるように支援していくことを目指した。

第2回として11月28日(月)にICC コンサルタントの方をお招きしてオーストラリア進学ワークショップを行う。オーストラリアは移民や留学に寛容であり、受験制度も比較的容易であるため、人気の留学先である。オーストラリアの具体的な留学生生活や留学準備について講演会を行った。

3. 出願指導

IBコースでは国内進学と海外進学の志望者が混在しており、また、国内と海外の併願も可能であるため、生徒とコミュニケーションをとることが重要となる。本稿では特に海外進学に焦点を当てる。

海外進学に絞っても、その希望進学先はアメリカやイギリス、オーストラリアなど多岐にわたる。国によって受験システムが異なり、全てを学校で網羅するのは難しいので、学校としてどこまでサポートできるのかをはっきり伝える必要がある。また、アメリカやイギリスの多くの学校では推薦書を用意する必要があるため、推薦書を担当する校内の制度設計も行った。

3.1 出願プロセス

アメリカの大学はCommon Application(以下、CommonApp)、イギリスの大学はUCASを用いることが多い。秋入学に向けて、CommonAppは8月、UCASは9月にオープンする。これを踏まえて以下のような大きなスケジュールを組んだ。

表1 出願プロセスのスケジュール

5～6月	7～8月	9～10月	11～12月
進路説明会	CommonApp、UCASの説明 生徒からの推薦書依頼	アメリカの早期出願	イギリス、アメリカの本出願準備

9～10月は学校行事や最終試験の準備などが重なるため、エッセイ執筆などの出願準備は7～8月にどれぐらい進められるかが重要となる。そのため、前述したように自己PRの書き方などのワークショップを実施して夏休みの準備を促した。

10月にはアメリカの早期出願(Early decision)が始まる。生徒はCommonAppを通して出願書類やエッセイを提出して出願料を支払う。学校はBridgeUを通して、成績証明書(Transcript)や推薦書(recommendation)を送付する。学校によって推薦書の数やエッセイの数が異なるので、

出願連絡票を活用することで、書類送付に不備が無いように生徒を支援していく必要がある。

3.2 推薦書の作成

学力試験がない海外大学受験において、推薦書は合否につながる重要な要素になりうる。そのため、今年度は、学校側が生徒の推薦書担当を割り振るのではなく、生徒が自身のアピール点を考え、誰にどのような点から推薦してもらいたいのか主体的に考えるように促した。これにより、生徒は志望学部の特長や高校生活を考慮し推薦書の依頼を行った。生徒1人ひとりが依頼を行うため、一部の教員に負担が偏るという問題が生じうる。そのため、9月以降に行われる面接練習と推薦書作成を合わせ、推薦書作成で負担を抱える教員の申し出があれば面接練習の担当人数を減らすこととした。

アメリカ進学の場合、作成した推薦書はPDF化し、成績証明書等と合わせてカレッジカウンセラーがBridgeUを通して大学に送付した。

4. 今後に向けて

アメリカやイギリス、オーストラリアでは年間400～500万円の費用がかかる場合が一般的である。家庭の経済状況によって、急な進路変更となることを防ぐために以下の取組みに注力する必要があると考える。

(1) 海外進学に必要な費用の周知

国ごとに大学の修学年数や物価が異なる。1年次の保護者説明会を中心に、国や地域ごとの費用面の案内を行って家庭での判断をサポートする。給付型の奨学金は枠が非常に限られており、奨学生として選ばれるためには学業だけでなく、課外活動での表彰や大会参加経験などが求められるため、安易に考えることのないように注意させる必要がある。

(2) コミュニティカレッジやアジア圏の大学からの編入の紹介

日本では大学から大学への編入は一般的ではないが、アメリカを中心に編入が一般的である国も存在している。大学1～2年はアメリカのコミュニティカレッジやマレーシア・台湾等の大学に通い、大学3年の初めに本命の大学に編入する方法を紹介していく。

(3) 国内進学を視野に入れた準備

費用面以外にも、新型コロナウイルスの感染状況の悪化や国際的な緊張の高まり等の理由で海外進学から国内進学に切り替える可能性がある。IBスコアを利用した大学入試にどのようなものがあるのか、決断はいつまでに行うべきなのか、をはじめとして、国内進学についての紹介も常に意識することで生徒の進路選択がスムーズになるように支援していく。